

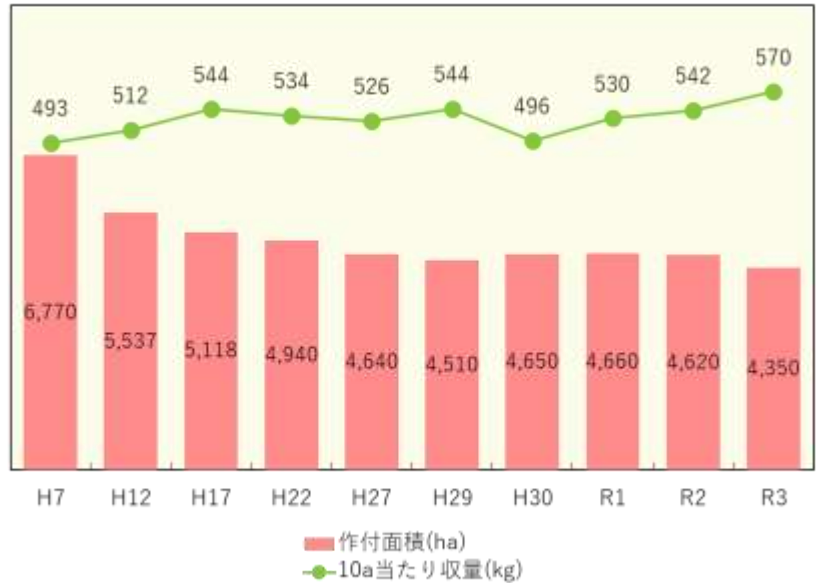
Ⅲ 主要農畜産物の動向

1 水 稲

後志管内の水稲作付面積は、昭和45年をピークに、約40年にわたる生産調整の実施や主食用米の国内需要量の減少に伴い、令和3年には4,350ha、収穫量は24,800tとなりました。

全道に占める割合は、作付面積・収穫量ともに5%程度で、また、蘭越町と共和町の2町で管内の水稲作付面積の約7割を占めています。

水稲の作付面積と単収の推移

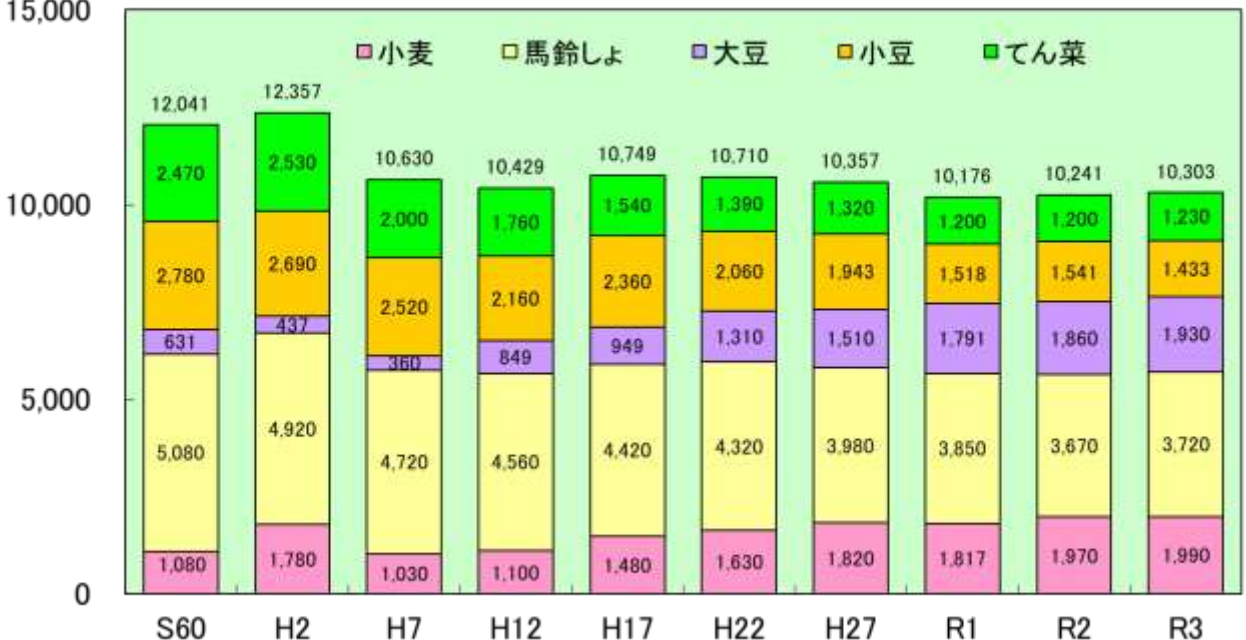


資料：農林水産省「作物統計」

2 畑作物

羊蹄山麓は、古くから生食用馬鈴しょが作付けされ、全国屈指の産地として高い評価を得ています。主要な品種は「男爵薯」、「キタアカリ」、「とうや」などで、その他、小麦、大豆、小豆、てん菜などと共に輪作で栽培されています。また、共和町、蘭越町などの水田地帯においては、輪作作物として、小麦、大豆、馬鈴しょなどの作付けがあります。

(ha) 主要畑作物作付面積の推移



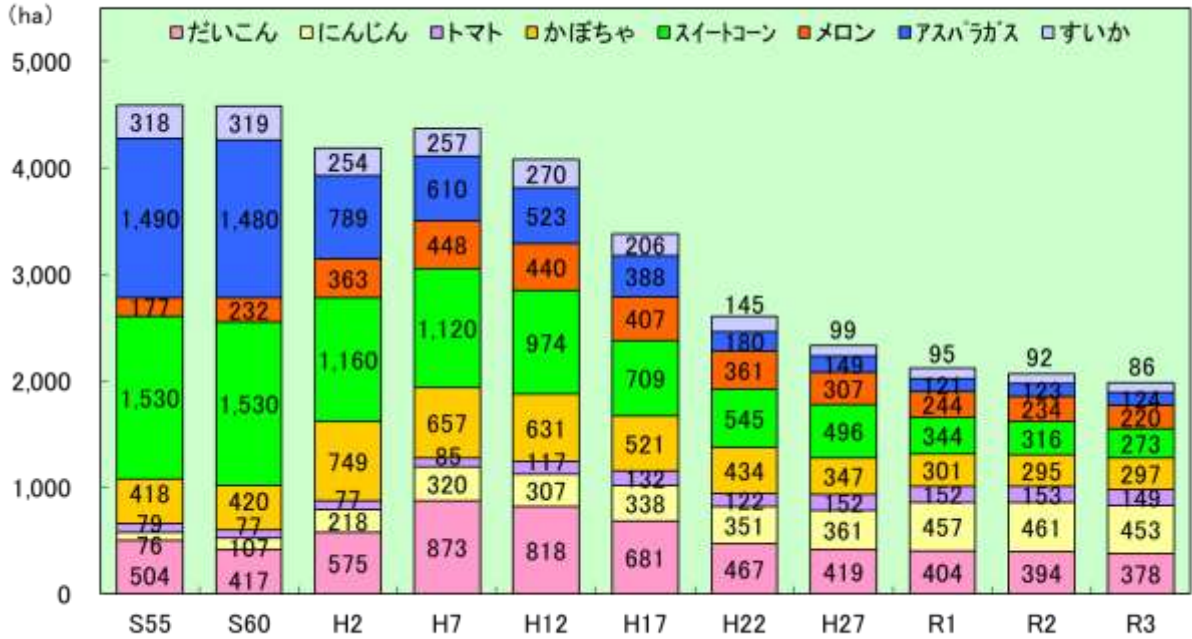
資料：農林水産省「作物統計」(小豆以外)
北海道「主要農作物作付動向調査(H22)」、「麦類・豆類及び雑穀の生産実績等調査(H27以降)」(小豆)

3 野菜

地理的条件を生かし多種多様な野菜が生産されています。ミニトマト、食用ゆり、すいか、メロン、だいこんなどは全道の生産に占める割合が高くなっています。

単位面積あたりの農業所得が高い野菜は、一戸あたりの耕地面積が小さな後志管内の農業経営において、重要な作物となっています。

主要野菜作付面積の推移



資料：農林水産省「作物統計」、H22 主要農作物作付動向調査、H23～主要野菜作付実態調査

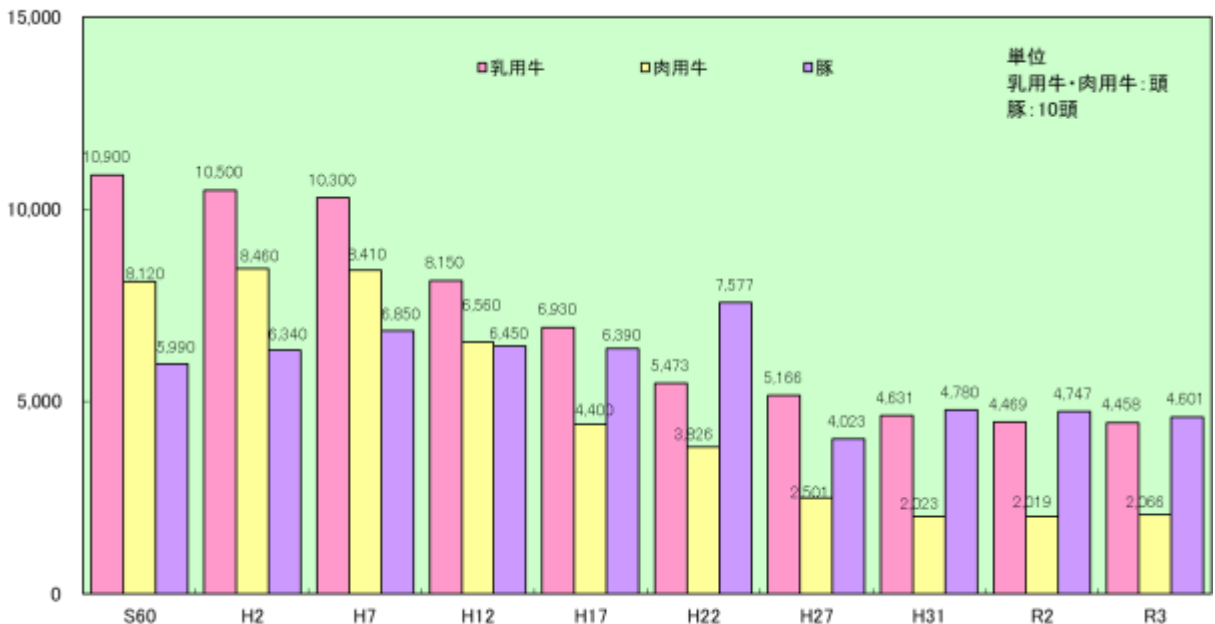
4 畜産

管内の畜産は、酪農と肉牛生産については、全道平均に比べ一戸当たりの規模が小さく、一方、養豚については、大きくなっています。

乳用牛や肉用牛の飼養頭数は、農業者の高齢化などから減少しており、全道に占める割合は1%程度です。

豚の飼養頭数は、近年増加してきており、全道に占める割合は、10.2%です。

主要家畜飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」(H17の豚の頭数は調査未実施のため、H16の数値を使用)
H22「農業センサス」、H27.30.31は平成27・28年度農政部畜産振興課調べ

5 果 樹

仁木町、余市町を中心に、後志の北部は道内有数の果樹生産地帯です。りんご、おうとう、ぶどうを中心に生産されています。近年は、ワイナリーの開設が相次ぎ、醸造用ぶどうの作付けが増加しています。

主要果樹栽培面積の推移



資料：特産果樹生産動態等調査

後志管内 ワイナリー

市町村名	会 社 名	ワ イ ナ リ ー 名
蘭 越 町	松 原 農 園	同 左
ニ セ コ 町	羊 蹄 グ リ ー ン ビ ジ ネ ス	ニ セ コ ワ イ ナ リ ー
仁木町	(株)自然農園グループ	ベリーベリーファーム & ワイナリー 仁木
	(株) NIKI Hills ヴィレツジ	NIKI Hills (仁木ヒルズ)
	(株) Vina de oro bodege	Vina de oro bodege (ヴィニャデオロボデガ)
	(株)ル・レーヴ・ワイナリー	ル・レーヴ・ワイナリー
	(株)自然農園グループ	Domaine ICHI (ドメーヌ・イチ)
	(株)余市川ワイナリー倶楽部	同 左
余市町	日 本 清 酒 (株)	余 市 ワ イ ナ リ ー
	Domaine Takahiko (ドメーヌタカヒコ)	同 左
	(株) OcciGabi Winery	OcciGabi Winery (オチガビワイナリー)
	リタファーム & ワイナリー	同 左
	登 醸 造	同 左
	Domaine Atsushi Suzuki (ドメーヌアツシスズキ)	同 左
	(株)平川ワイナリー	平 川 ワ イ ナ リ ー
	Domaine Mont (ドメーヌモン)	同 左
	ワイナリー YUMENOMORI	同 左
	(株)キャメルファーム	キャメルファーム
	モンガク谷ワイナリー	同 左
	(株) YUI	DOMAINE YUI (ドメーヌ・ユイ)
	笠 惇 太 郎	Lan Seqqua (ラン・セツカ)
	山 田 雄 一 郎	山 田 堂
	バーガンディー(株)	Misono Vineyard (ミソノヴィンヤード)
村 井 啓 人	LOWBROW CRAFT LOCAL INDEPENDENT WINERY (ロウブロークラフトローカルインディペンデントワイナリー)	
小 樽 市	北 海 道 ワ イ ン (株)	北 海 道 ワ イ ン
	OSA WINERY (オサワイナリー)	同 左